

## 第27回病診連携委員会要録

日 時 平成23年11月28日（月） 午後7時30分  
場 所 浪速区医師会 会議室  
出席者 浪速区医師会 : 7名  
愛染橋病院 : 2名  
大野記念病院 : 3名  
多根総合病院 : 1名  
富永病院 : 1名  
浪速生野病院 : 2名  
南医師会 : 1名  
薬剤師会会長 : 1名  
協立病院 : 1名  
ベリタス病院 : 1名  
(株)ファルコバイオシステムズ : 2名  
住友セメントシステム開発(株) : 1名  
レイクリエーション : 2名  
ブルーカード事務局準備室 : 1名  
浪速区医師会事務局 : 1名

今回の委員会には、川西市の協立病院とセコム提携病院であるベリタス病院が救急対応における病診連携の在り方を勉強するために参加された。薬剤師会からも浪速区薬剤師会会長が参加され、現在、おくすり手帳の電子化を検討しており、ブルーカードとの連携に関心を持っているとのことであった。ブルーカードに検査データなどを添付する議論に意見をもらうためファルコバイオシステムズと住友セメント開発（株）にも参加してもらった。

### 議 題

#### 1. 第26回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

#### 2. ブルーカード事例検討について

浪速生野病院より、ブルーカード登録患者が外来受診した場合の事務局への報告義務についての確認があった。ブルーカードは、夜間、休日の緊急対応カードであるものの、入院すると内容の変更が必要になるため、外来受診だけなら報告義務は不要であるが、入院した場合は報告義務があることが確認された。

#### 3. 病診連携委員会のアンケート結果について

(1) 検査・薬剤情報を検査会社や薬局の協力を得てブルーカードに添付することについて

コストなどの条件が合えば問題ないとする意見と、現時点では時期尚早ではないかという両方の意見があった。その他、詳細な方法論が決まっていないので賛否を判断しかねるという意見、検査会社、調剤薬局の中にも対応困難な企業があるのでその企業と取引のある施設に対してはどのように対応し

ていくのかという意見、そしてブルーカードが診療情報提供書に準ずる扱いなので登録医療機関への情報添付の承諾をどのようにするのかという意見などが上がった。

現在、医療情報をアップするシステムを構築中であるが、これらの意見を踏まえながら完成度の高いシステムに仕上げていくこととなった。

#### (2) 各施設での医療情報のバックアップ体制について

各医療機関の医療情報のバックアップ体制が紹介された。

#### 4. ブルーカード利用規約について

前回の委員会で、各自規約原案を再確認し変更点などがあれば、事務局へ連絡してもらおうこととなっていたが、特別な意見は提出されなかった。前回決定した第14条（料金改定）の内容を修正することで、利用規約原案は承認された。

また、事務局よりブルーカードサイトが完成したことが報告された。

#### 5. 検査データ等添付の今後について（資料3）

久保田議長から、構想中のブルーカードにおける検査データの添付方法が提示された。検査データなどの様々な情報を、各診療所が個々に添付するにはかなりの労力を要する。そこで検査会社と薬局の協力を得て定期的にデータの添付更新を行うシステム作りを目指す方針が示された。一例として更新希望データに「(仮)ブルーカードシール」を貼って検査会社に検査依頼すれば、データが事務局にも送られ、それを事務局で添付する方法が提案された。しかし、この方法は、バラバラに事務局へ情報が送られてもリアルタイムの更新は困難であり、データを更新する際などの決められた時点で添付するのが現実的であるとの意見があった。

また、事務局からは、添付情報をアップするために名前検索しようと思っても、現在のシステムでは名前検索ができないので、すみやかなデータ整理は困難であるとの意見もあった。薬剤情報については、あらゆる薬局が参加してくれないとブルーカード圏外の薬局で薬をもらった場合の情報が登録されず、完全な薬剤情報が作れないのではないかと意見が出された。

これからもシンクネルの検索機能と同時進行で情報添付についても検討をしていくこととなった。

#### 6. ブルーカードアプリの利用方法について（資料4）〈レイ・クリエーション〉 レイ・クリエーションよりブルーカードアプリの進捗状況の報告が行われた。

現在、ブルーカードアプリはデモ版を体験できる状況になっている。作成したブルーカードは基本的に保存できないが、各施設のアドレスにメール送信し確認することができるということであった。作成したブルーカードがiPad上で保存できないのなら、毎回初めから作成する必要があるのでは手間であるとの意見があった。

セキュリティーの問題から、iPad上には保存できないのでクラウドの利用などを検討することとなった。また、メールでの送信はセキュリティーに問題があるとの意見があった。i Fax Proのようなアプリを利用してFaxで送信できるようにするか、クラウドを利用することなどを検討することとなった。

#### 7. その他

##### (1) 愛染橋病院の橋本先生について

橋本先生が1月よりNTT病院へ転勤されることになり、今回でこの委員会

を辞することとなった。医療クラウドは時代にマッチした強固な倉庫であるものの、いつでも誰でも閲覧できる場所として利用するには、まだ少し障害がありそうなので慌てず、ゆっくりとこの委員会で育ててほしいとのエールをいただいた。また、救急指定病院でない連携病院の事情も考えたブルーカード作りを考えてほしいとの宿題もいただいた。

(2) iPadの料金設定について

事務局より、iPadを2台以上使用している施設の料金設定を協議することが提案された。

しかし、住友セメントとの交渉もあり、改めて協議することとなった。

(3) 来年度に検討すべき事案について

久保田議長より来年度に検討すべき事案が提示された。

- ① 大阪市消防局に働きかけて搬送に20分以上かかった症例の報告を依頼し検討分析する。
- ② 連携病院別に登録医のデータを収集し、ブルーカードへの参加を積極的に促していく。
- ③ ブルーカード登録医の増加に合わせて、必要な連携病院の拡充に努力する。川端先生に南医師会として連携希望病院を調べてもらうように依頼した。
- ④ 薬剤情報不足の問題で、協力の意向をいただいているながら連携が取れていないほくとクリニックへの登録を推進する。

現時点でのブルーカードの登録件数は、浪速区284件（前月より1件増）と他地区より6件（前月より4件増）の合計290件、稼働件数は133件（前月より4件増）との報告が事務局よりあった。今回事務局には28件の報告があり、来月よりシンクネルの共有フォルダ内に全例がアップされることになった。

次回会議予定 平成24年1月30日（月）午後7時30分～